被災者への思い 歌に乗せ

札幌の浅沼さん来月ライブ

札幌のシンガー・ソングライター浅沼修さん(74)が東日本大震災の慰問に訪れた岩手県での体験を基に曲を作った。タイトルは「潮騒」。被災者の思いを盛り込んでおり、4月の札幌のライブでも披露する。

2011年3月の震災から3カ月後、浅沼さんは、復興を願う碑を手掛けた友人の江別の造形作家原田ミドーさんと「自分は歌で寄り添いたい」と同県へ赴いた。2年間で4回訪れ、歌手の芹洋子さんらが1970年代にカバーした自作曲「時計台のある街」などを仮設住宅の集会所などで歌った。

大船渡市での演奏後に夫を失った女性と話す機会があった。「みんな流され、別れ別れになった。もう夢の中でしか会えない…」

「潮騒」は15年に完成した。

「こぼれて涙は風の中 あなたに逢いたい夢の中 潮騒にはこばれて やさしいあの声きこえてくる 海が青いから泣けてくる」―。曲調は静かで、むしろ「夢の中」のように明るい。「悲しみは深く切ないが、最愛の人とせめて夢で会ってほしいと思った」という。過去のライブなどで何度か歌ったことがある。

4月6日午後7時から「ボストンクラブ」（中央区南5西3）で、フォークの名曲「白い冬」の作詞者工藤忠さんとのライブがあり「潮騒」も披露する。問い合わせは同店、電話011・512・4939へ。

（鈴木雅人）

子ども食堂で「潮騒」を歌う浅沼さん＝5日、札幌市北区の「松盛庵」